

# 西海ブロック水産業情報

NO. 77 (平成24年4月～6月)

## 増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p><b>【筑前海】</b>                      ・今漁期のフトモズク養殖生産量は9.4トンで、昨年比70%であった。不調の原因は主として3～4月の盛漁期に水温が前年より高かったために、珪藻が付着したためと思われる。</p> <p><b>【有明海】</b>                      (増殖)                      ・水産庁事業で50mmクルマエビ種苗を6月21日～7月5日にかけ66.7万尾、C3ガザミ種苗を6月20日～26日にかけ49万尾放流。                      ・カキ殻系状体の培養を開始してから、6月で約3ヶ月が経過した。生長は平年並みで、胞子嚢の形成は平均で3割程度。現在までのところ、病気は見られていない。</p> <p><b>【豊前海】</b>                      (カキ養殖)                      ・現在養殖中の種カキは、付着数にバラツキがあり数も少なかった上に、魚類の食害等を受け付着数が例年の1/4と少ない。現在、食害対策試験を実施中。                      ・今年度も、半数の漁協(支所)で自家採苗を実施予定。(栽培漁業)                      ・クルマエビ及びガザミの中間育成を実施。                      ・干潟(行橋市、吉富町地先)において、「かぐや方式」によるアサリ増殖試験」を実施中。                      (資源管理)                      ・5月1日から、抱卵ガザミの再放流を実施。</p>	<p><b>【玄海】</b>                      (種苗生産)                      ・カサゴ: 6月下旬までに放流用など約16万尾(全長45～60mmサイズ)配布。                      ・アカウニ: 5月下旬までに1.3万個体(殻長3～5mmサイズ)、137.1万個体(殻長8～12mmサイズ)配布。                      ・ナマコ: 6月末現在、アオナマコ約40万個体(体長10～20mmサイズ)配布、約60万個体飼育中。アカナマコ約80万個体(体長5～20mmサイズ)飼育中。                      (試験研究)                      ・沿岸地先3カ所で、ウニ食害種防止槽と母産投入による産場回復試験を昨年度に引き続き実施中。                      (有明)                      (研究の動向)                      (水産資源関係)                      ・タイラギ・サルボウ調査、漁獲物動向調査(市場調査)を実施。                      (水産海洋・漁場保全関係)                      ・浅海定線調査、漁場環境モニタリング調査(底質、マクロベントス)、サルボウ適正生態環境調査(水質)、貝毒分析(カキ)                      (水産増養殖関係)                      ・放流アゲマキ追跡調査、アサリ・サルボウ生息量調査                      ・養殖マガキの付着密度比較試験および垂下水深比較試験                      ・沖合域におけるモガイ殻 散布経路試験の追跡調査                      ・サルボウの浮遊幼生等調査                      (その他)                      ・有明水産振興センターのホームページに漁海況情報として、ノリ養殖情報や海況関連情報を公開中。                      (水産養殖関係)                      ・タイラギ                      6月13日の生息状況調査の結果、4地点のうち1地点でわずかに0.06個/m<sup>2</sup>だった以外は確認できなかった。                      ・サルボウ                      24年度漁期は、4月27日から「だらだら死亡」の影響が小さかった沖合の漁場を中心に漁獲が行われたこともあり、主力漁場である芦刈、白石、鹿島地先では例年の1/2程度(約1,500トン)と厳しい状況となった。一方、久しぶりに大量発生がみられた大浦地先では、「だらだら死亡」の発生がなかったことから、主力漁場に比べ5割程度多い日1隻1トン程度の漁獲が漁期終了(7/6)まで継続し、約1,200トン、約4千万円の水揚げとなった。これらのことを総合すると、今漁期の漁獲量は、20年漁期並の3,000トン程度となると推定している。                      (水産海洋・漁場保全関係)                      ・水質は、4月は平年よりやや高め、5月はやや低め、6月は平年並で変動した。                      ・比重は、5月は平年よりやや高め、4、6月は平年並みで変動した。                      (水産増養殖関係)                      ・マガキ養殖                      23年度のマガキ養殖については、水温が低めに推移したこと、餌となる植物プランクトンの量が少なかったことなどから、秋口の大量死亡は発生しなかったものの、フジツボ、ホトキスガイ等の競合生物の大量付着と餌料不足により生育が抑制され、水が年状となった死亡が見られた。このため、生産量は昨年度の26トンを上回ったものの3割と本格的な養殖が開始された16年度以降、4番目に低い結果となった。なお、今年度の種カキについては、宮城県産を必要量(ホタテ殻で約25万枚)11月下旬に入手し、現在、20経営体が23基の筏で養殖を実施中である。                      ・ノリ養殖                      平成23年度のノリ養殖の生産は、秋券網期が生産枚数3.5億枚、生産金額36.1億円、平均単価10.32円、冷涼網期が生産枚数14.8億枚、生産金額156.0億円、平均単価10.70円、総計が生産枚数18.3億枚、生産金額194.1億円、平均単価10.63円となり、枚数、金額共に平年(H15～22)を上回る結果となった。</p>	<p>○有明海漁業振興技術開発事業                      [タイラギ]漁場改良試験、種苗生産試験を開始                      ○貝殻の新養殖技術開発                      マガキシングルシードによる養殖試験用の種苗生産を開始                      ○養殖魚類の育種技術開発研究事業                      [ホシガレイ]仔稚魚飼育を実施中(仔魚期にメチルテストステロン投与)。                      [トラフグ]高成長、早熟等の優良雄親魚精子を用いて、人工授精を実施して、稚魚を飼育中。                      ○良質な種苗の生産技術開発研究事業                      [カワハギ]5月上旬に天然魚、天然養成親魚および人工養成親魚から採卵を行い、飼育試験を実施中。                      [クエ]5月下旬に養成親魚にホルモン処理を施して、採卵を行い、形態異常低減化のための飼育試験を実施中。                      ○クロマダロの種苗生産に向けた飼養技術の高度化(プロジェクト研究)                      [クロマダロ]シロギスの産卵状況を把握中。                      ○標識放流                      ・トラフグ(全長7cm、260千尾、有明海)                      ○放流魚追跡調査                      ・トラフグ、ホシガレイ、ヒラメ、オニオコゼ等について追跡調査を実施</p>	<p>・6月末から冬期出荷クルマエビの池入れが開始された。                      ・現在までクルマエビ類の急性ウイルス血症(PAV)の発生報告無し</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・スジアラ種苗生産: 6月採卵分を20トン水槽3面で生産中。                      ・オオモンハタ種苗生産: 6月採卵分を20トン水槽2面で生産中。                      ・5/19～26に長島町浦底湾で赤潮(ヘテロシグマアカンオ)が発生                      最高細胞数 45,000cells/ml 漁業被害なし                      ・7/4～7に鹿児島湾奥(福山～牛根沖)で赤潮(ヘテロシグマアカンオ)が発生                      最高細胞数 97,600cells/ml 漁業被害なし                      ・3月中旬頃から、本県沿岸に広く分布していた年質状浮遊物は、県内の漁協聞き取りでは4月中旬以降確認されず、5月上旬の県調査船による分布調査でも確認されなかった。</p>	<p>○イワガキ成長試験(北浦H21群: 洗浄区(大きさ別に4区)・非洗浄区(大きさ別に4区))                      ・平成21年6月に人工採苗し、北浦漁港内において成長試験を行っていたイワガキについて、平成24年6月を3年貝の出荷時期と想定し、取上げて精密測定を行った。                      ・各区分とも非洗浄区の方が成長率、生存率も洗浄区より高く、洗浄しない方が良い結果となった。洗浄区の平均殻高は123.5mm、非洗浄区の平均殻高は117.7mmであった。                      ○マサバ                      ・5月29日にホルモン打注し、同31日に採卵した浮上卵を使用し、5kL水槽にて種苗生産試験を開始した。                      ・試験区は2区設定し、ワムシ及びアルテミアの高栄養強化区を1区、通常栄養強化区を2区とした。それぞれ8万粒ずつ池入れし、1区は約3.5万尾(ふ化率約44%)、2区は約3.3万尾(ふ化率約42%)がふ化した。6月22日に21日令で取り上げた結果、1区は673尾、2区は412尾であった。</p>		